

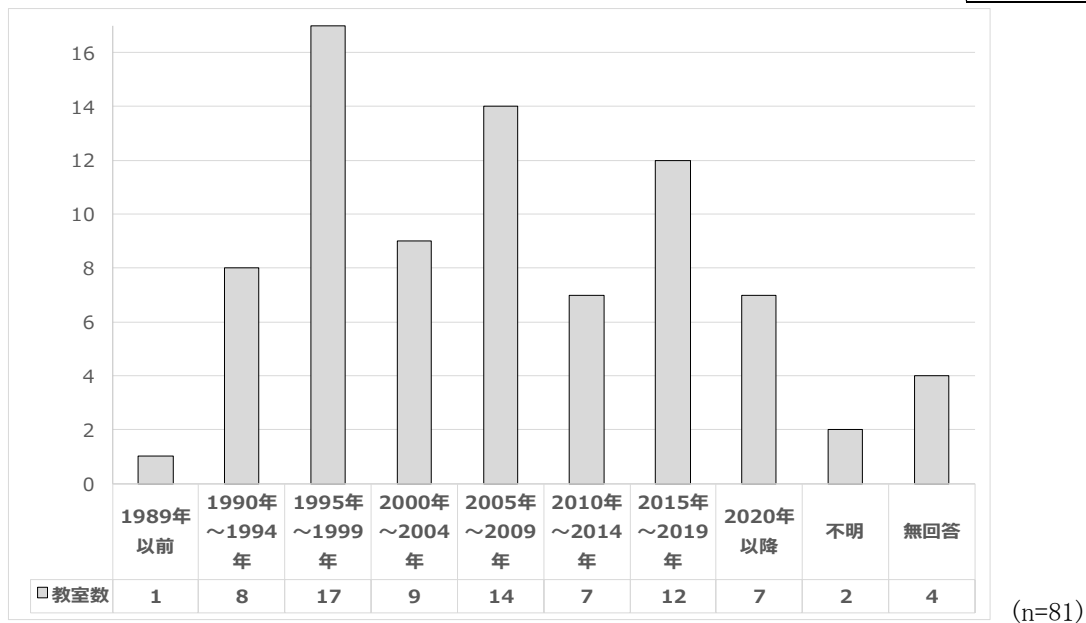
(3) 日本語教室調査結果

問1. 【自由記述】

貴教室名 省略

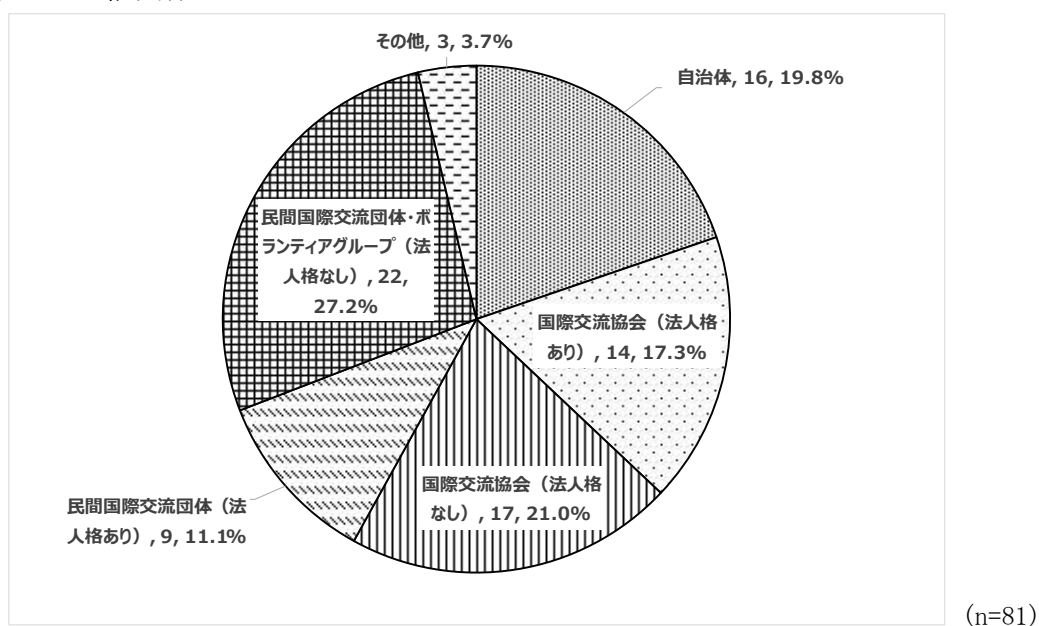
問2. 【自由記述】

貴教室の設立年・月（回答値を集計し、5年毎に分類。最古年と2020年以降は除く） 設立月省略



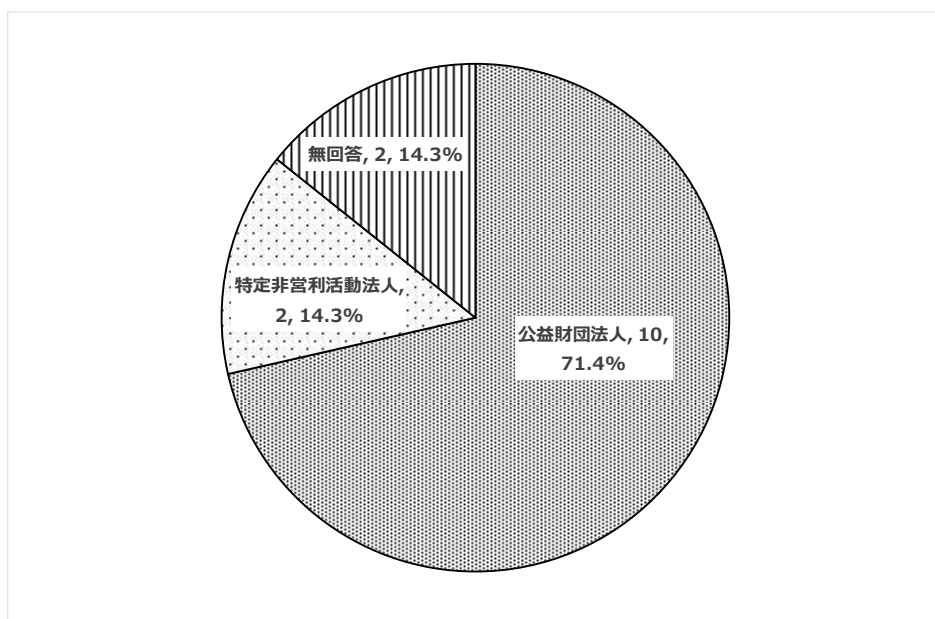
問3.

貴教室の主催団体



問3. で“国際交流協会（法人格あり）”を回答した教室

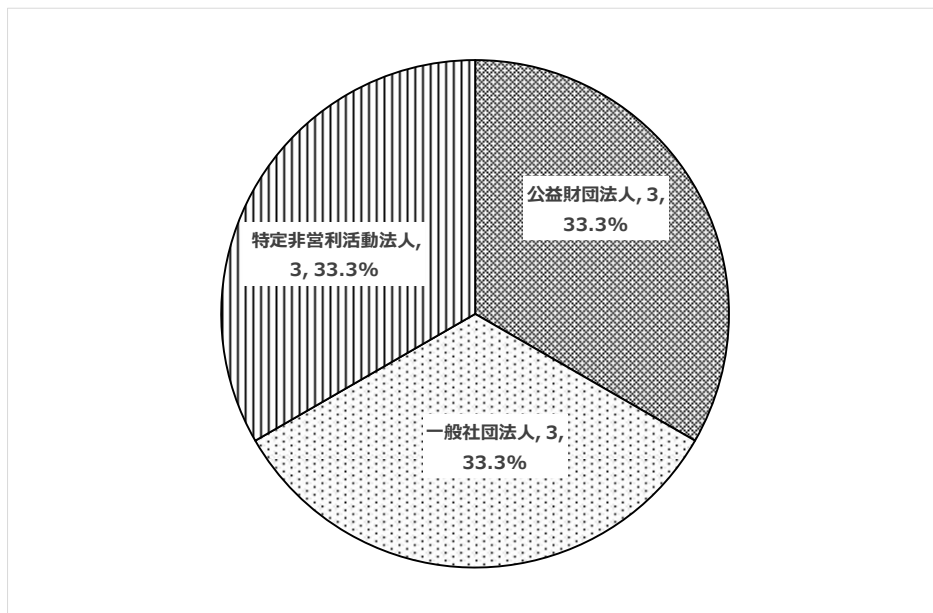
◆国際交流協会 法人別



(n=14)

問3. で“民間国際交流団体（法人格あり）”を回答した教室

◆民間国際交流団体 法人別



(n=9)

■その他

監理団体

営利法人

問4.

貴教室の活動地域

市町村名	教室数	%
名古屋市	16	19.8%
豊田市	7	8.6%
愛知県全域	5	6.2%
豊橋市	4	4.9%
岡崎市	3	3.7%
蒲郡市	3	3.7%
安城市	2	2.5%
一宮市	2	2.5%
稲沢市	2	2.5%
犬山市	2	2.5%
小牧市	2	2.5%
長久手市	2	2.5%
田原市	2	2.5%
東海市	2	2.5%
豊明市	2	2.5%
みよし市	1	1.2%
愛西市	1	1.2%
岡崎市及びその近隣周辺地区	1	1.2%
額田郡幸田町	1	1.2%
刈谷市	1	1.2%
江南市	1	1.2%
春日井市	1	1.2%
常滑市	1	1.2%
新城市	1	1.2%
瀬戸市	1	1.2%
清須市	1	1.2%
西尾市	1	1.2%
大府市近郊	1	1.2%
知多郡武豊町	1	1.2%
知多市	1	1.2%
知立市	1	1.2%
東浦市	1	1.2%
東浦町	1	1.2%
東郷町	1	1.2%
日進市	1	1.2%
半田市	1	1.2%
扶桑市	1	1.2%
碧南市	1	1.2%
豊川市	1	1.2%
北名古屋市	1	1.2%
合計	81	100.0%

(n=81)

◆名古屋市区内別

名古屋市	教室数	%
名古屋市中区	5	31.3%
名古屋市中村区	2	12.5%
名古屋市北区	2	12.5%
名古屋市港区	1	6.3%
名古屋市西区	1	6.3%
名古屋市千種区	1	6.3%
名古屋市東区	1	6.3%
名古屋市南区	1	6.3%
名古屋市熱田区	1	6.3%
名古屋市緑区	1	6.3%
合計	16	100.0%

(n=16)

問5.

日本語教育・日本語学習支援に関わる貴教室のスタッフ数

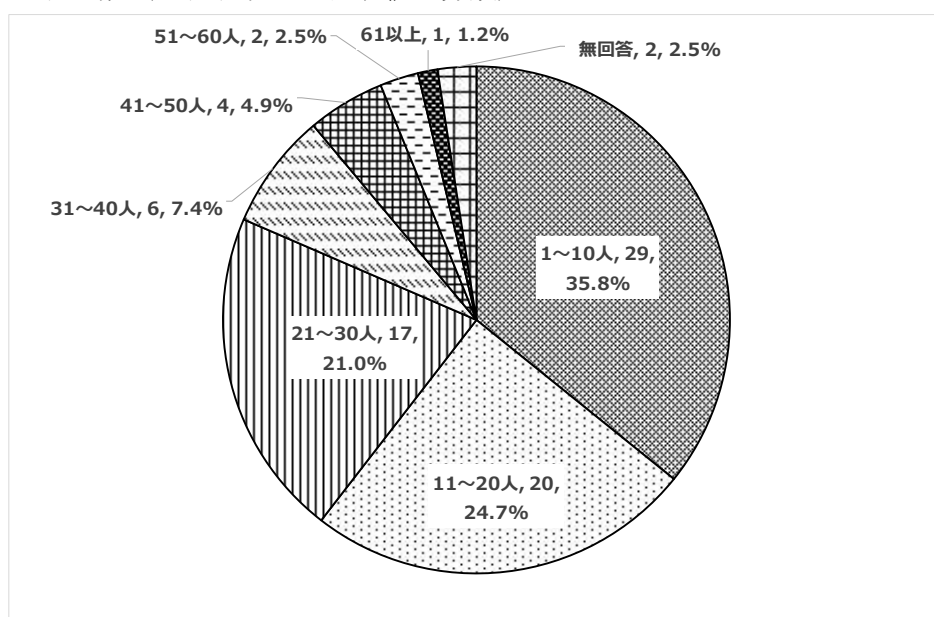
	日本人+外国人スタッフ数
平均	19人
中央値	15人
最小値	2人
最大値	99人

◆スタッフ数合計（各スタッフ別に全教室の回答値を合計）

	日本人	外国人	合計
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<有償・有資格>>	36	4	40
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<有償・無資格>>	53	10	63
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<無償・有資格>>	175	23	198
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<無償・無資格>>	445	3	448
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<有償・資格等不明>>	0	0	0
日本語指導に直接かかわるスタッフ <<無償・資格等不明>>	499	2	501
日本語教室の運営などにかかわるスタッフ	107	6	113
その他	11	2	13
合計	1,326	50	1,376

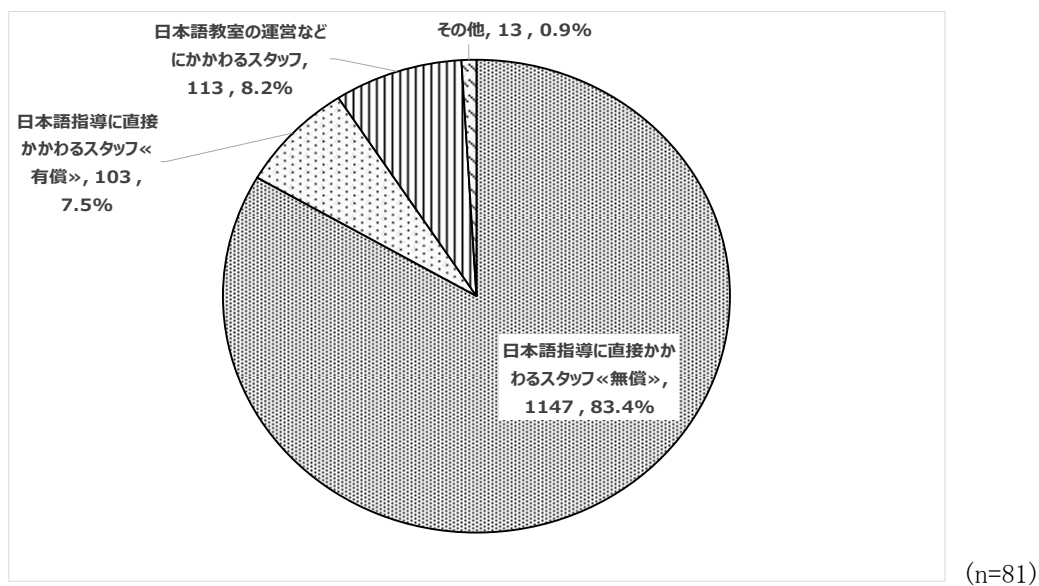
(n=81)

◆スタッフ数（10人区切りで回答値を分類）



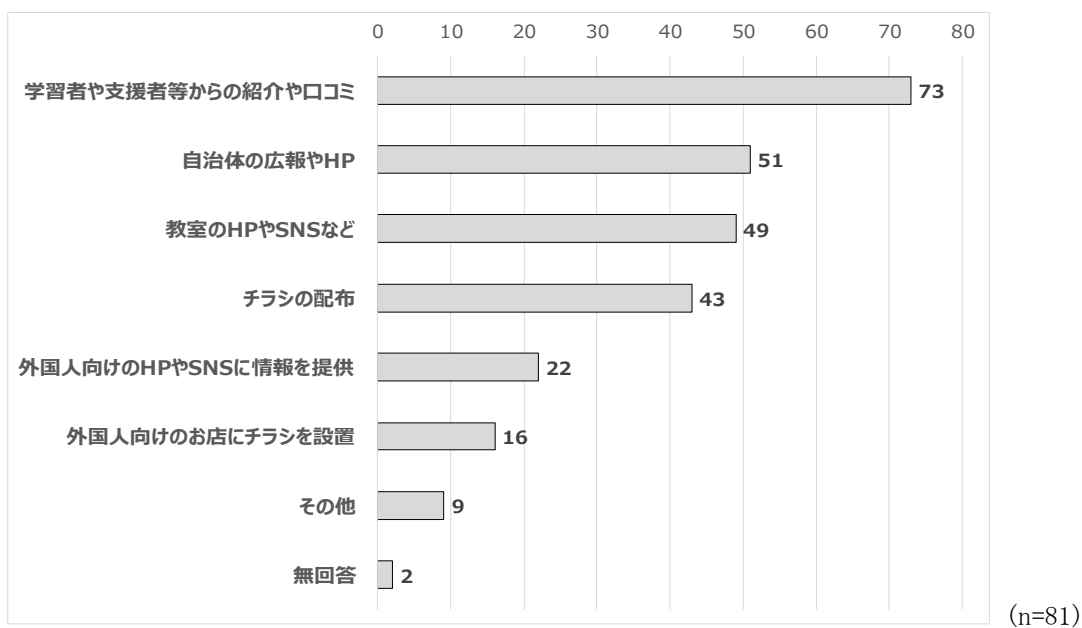
(n=81)

◆スタッフ種別×有償・無償別



問6.【複数回答】

学習者の募集方法



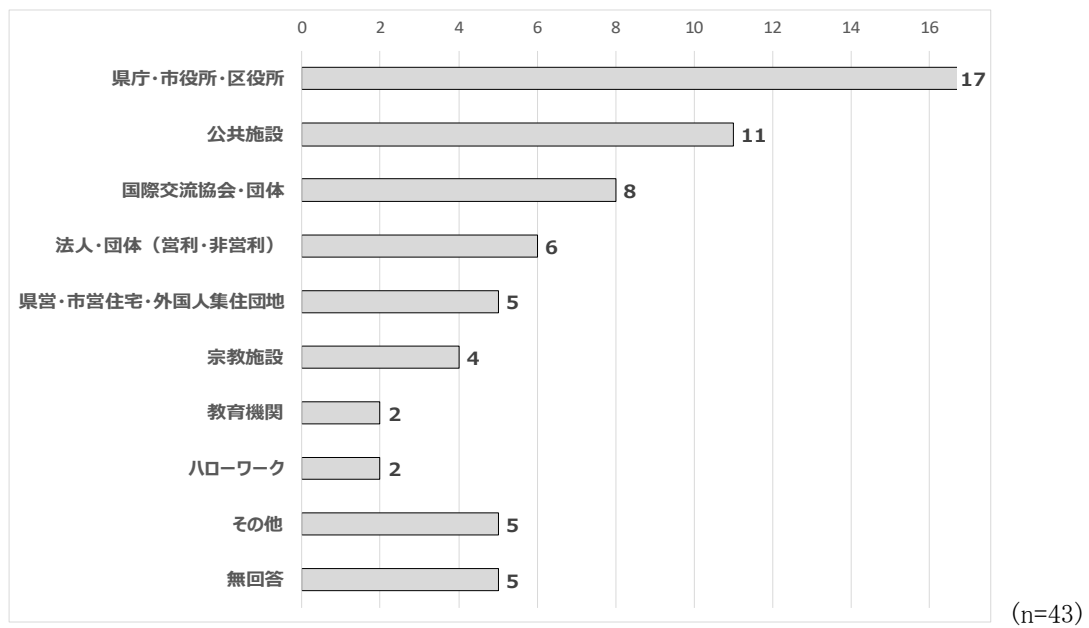
■その他

国際交流協会からの紹介・HP	4件
SNS (LINE・Facebook等)	3件
ハローワークからの紹介	2件
大学広報	
監理組合HP	
ポスター掲示	

※複数回答あり

問6. で“チラシの配布”を回答した教室

◆チラシの配布先【複数回答】（自由回答の内容を分類し集計）

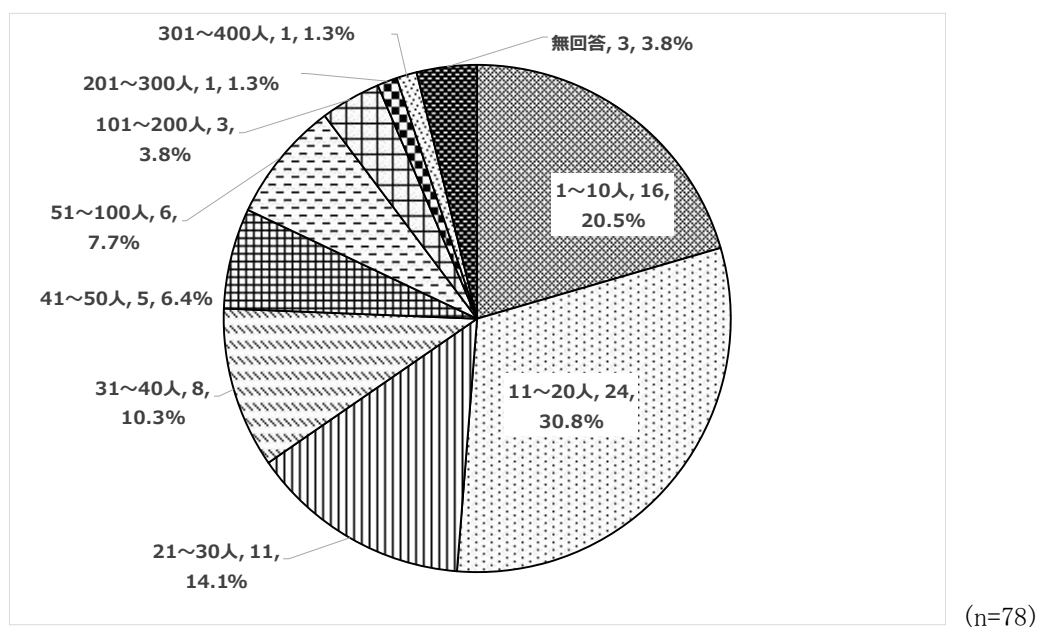


■その他

会員案内
つながりのある外国人
近隣の外国人に配る
スーパー
関係機関

問7. 【自由記述】

学習者数 2021年度開講時点の人数をご記入下さい。なお、2021年度休止中の教室は、把握している最も直近の人数をご記入下さい。(50人以下は10人、100人以下は50人、101人以上は100人区切りで分類)



※ある一定期間の延べ人数を回答した教室 (3 教室) の回答はグラフに含めていない。

問8. 【自由記述】

学習者の国籍、年齢別人数

	合計	ベトナム	ブラジル	中国	フィリピン	インドネシア	ペルー	ネパール	韓国	タイ	その他・不明
19歳以下	203	5	47	36	43	3	15	29	0	0	25
20歳~39歳	838	311	91	111	112	54	10	16	11	15	107
40歳~59歳	271	5	87	54	29	5	17	4	7	8	55
60歳以上	44	0	10	1	0	0	3	0	3	0	27
合計	2,304	476	391	318	283	90	82	64	37	37	526

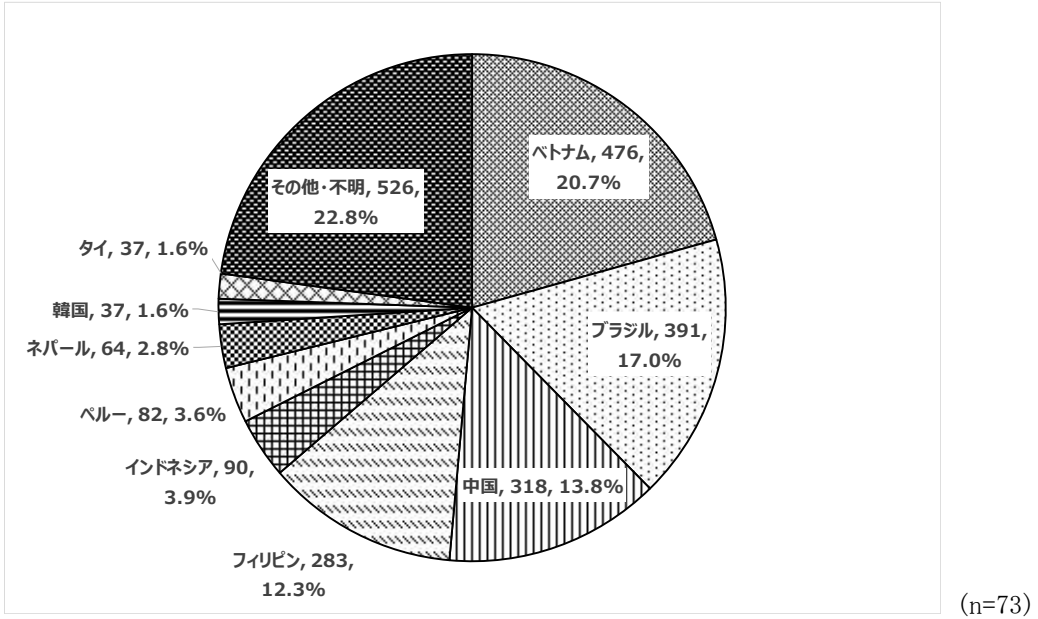
(n=73)

※無回答(11 教室)

※年齢別人数無回答 (8 教室)。そのため、年齢別の人数を足し上げた国籍別人数の合計と表合計列の国籍別人数は異なっている。

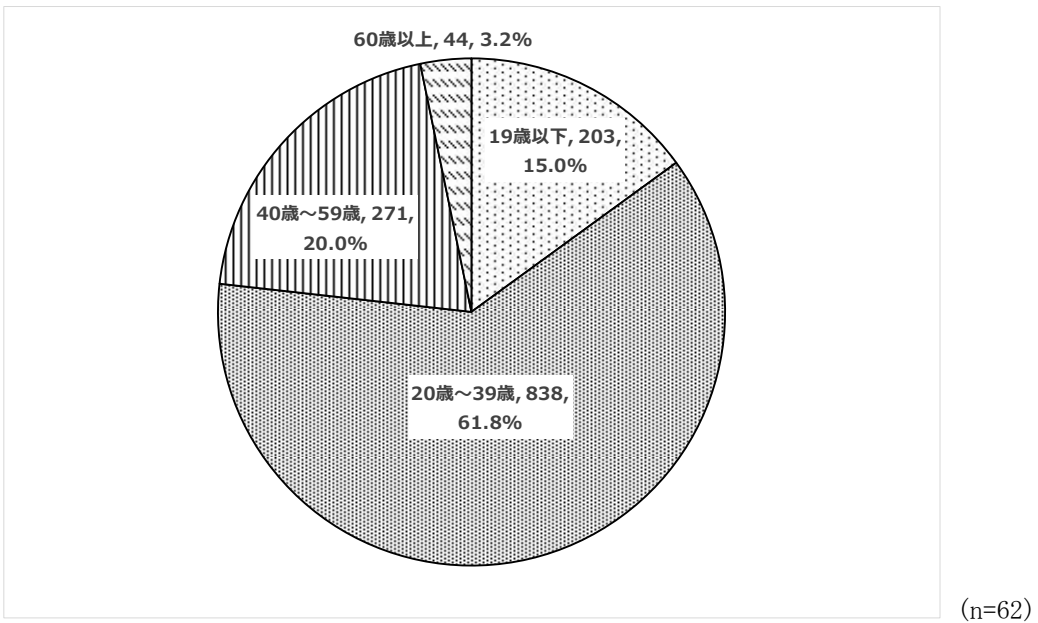
※n の数は、全項目無回答を除いた数 (合計人数のみ回答した教室数は含む)

◆ 国籍別



※無回答(11 教室)

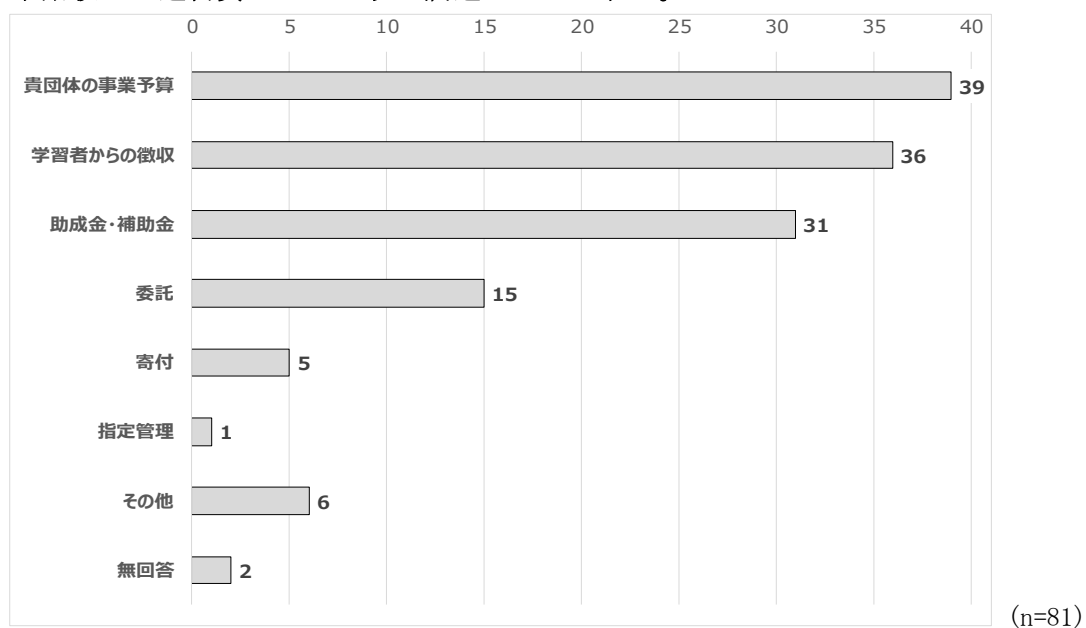
◆ 年齢別



※無回答(19 教室)

問9. 【複数回答】

日本語教室の運営費をどのように調達していますか。



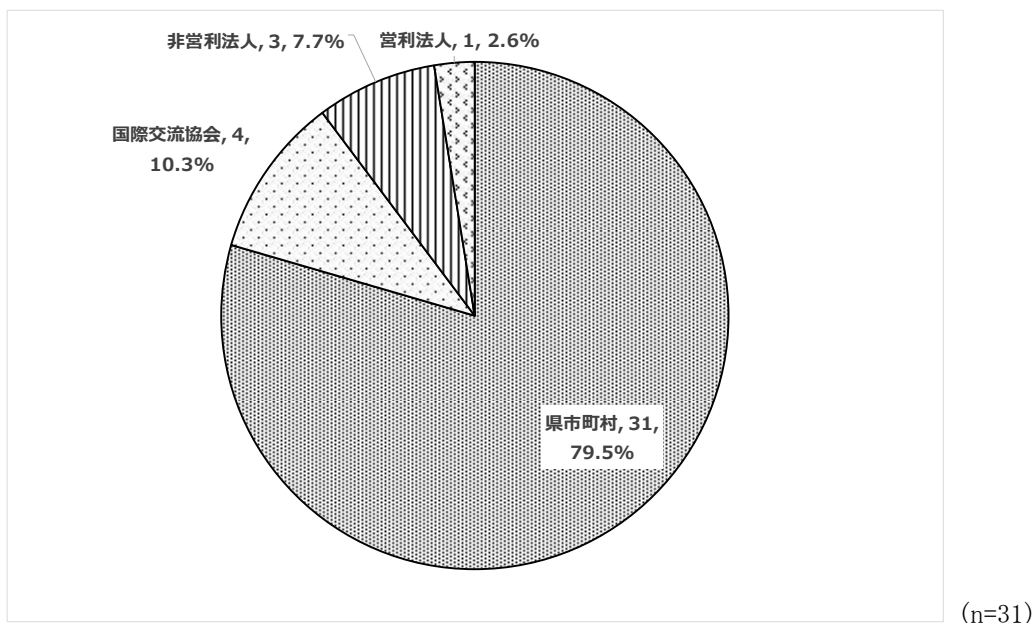
■ その他

会員の年会費：3件
市町村事業による支援
運営は無償で行っている。ボランティアスタッフから教材、消耗品等の要望があれば市の予算で購入し、提供している。
一般財源（国際交流事業振興基金取り崩し）

問9. で“助成金・補助金”を回答した教室

問10. 【複数回答】

助成金・補助金の申請先（※自由回答の内容を分類し集計）



問9. で“委託”または“指定管理”を回答した教室

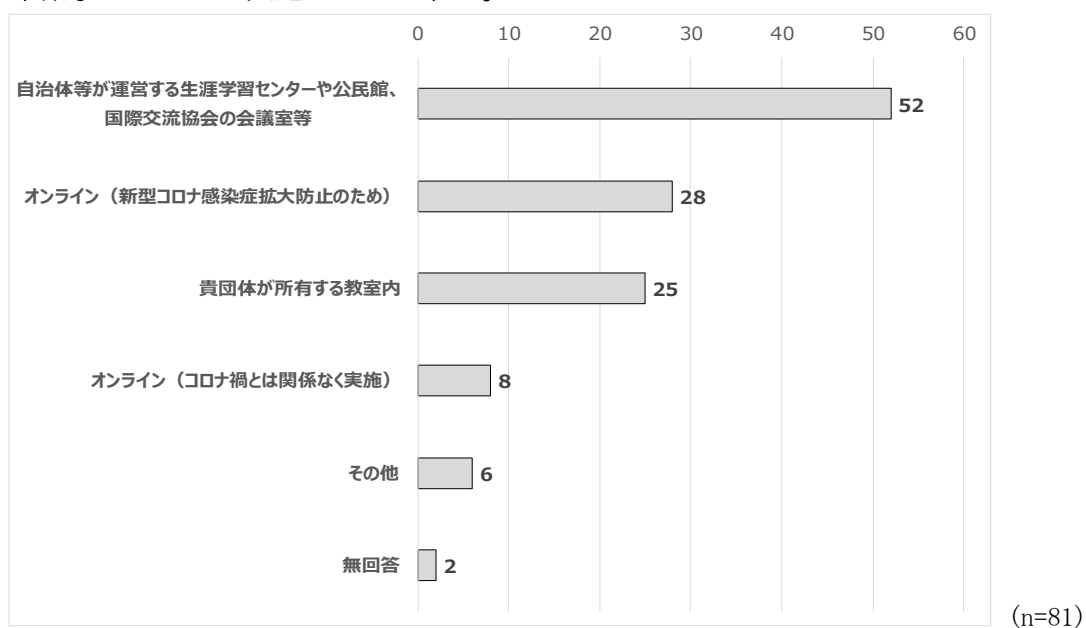
問11. 【自由記述】

委託・指定管理の場合、委託元名をご記入下さい。

県：1件
市町村：14件

問12. 【複数回答】

日本語教室をどこで実施していますか。



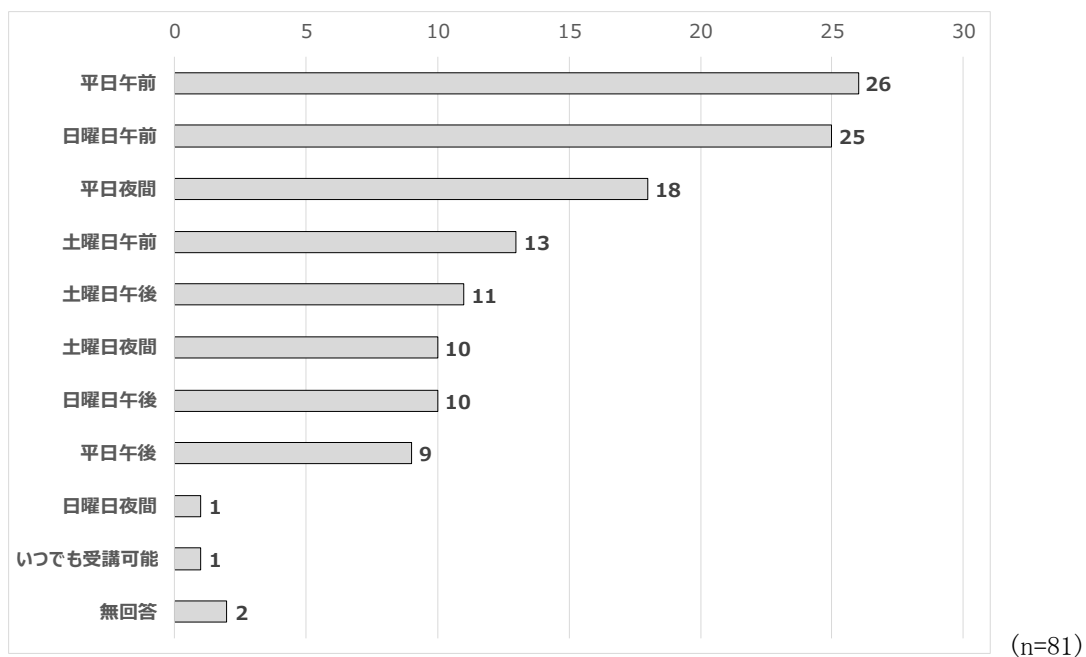
■その他

集会所：3件
福祉会が借りている民家
民間の会議室
貸し施設

※自治体、国際交流協会が主催する教室は、主催者が管理する会場を使用する場合は「貴団体が所有する教室内」を選択

問13.【複数回答】

日本語教室をいつ実施していますか。



問14. 【自由記述】

教室が掲げる目的（理念・方針）や教室が大事にしていることについて教えてください。（同様のコメントはまとめ）

日本語教育・日本語学習支援	学習者のニーズ・目的に沿った学習：15件
	小人数で楽しく学ぶ。：5件
	学習者の希望に沿った学習
	学習者のレベルに応じた学習：5件
	外国人住民の日本語使用機会の創出：3件
	学習希望者が学習したい時いつでも来ることができる。（事前登録不要）
	日本語を勉強して自国へ帰って役立てることができるようにする。
	基本的な日本語の習得
	教えない日本語教室・・・テキストは使わず、学習者の知っている言葉から会話へ。
	有資格者で、日本語教師として実績がある講師による確実な日本語定着。
	スタッフ一人一人が会の運営者となり、『日本語を学びたい』と考えている学習者に対して学ぶ場を提供する。
	日本語学習の手伝いをする。
	学生は学校での教科学習に関わる日本語の学習、漢字学習。
	大人は仕事に役立つ日本語学習を行っている。
対面式（90％）では生徒のレベルに合わせて、教室式（10％）では楽しく学習できるようなペースで	
学校の宿題など、学習者に寄り添った対応をする	
試験対策 日本語能力	日本語能力試験合格のサポート：5件
	日本語能力試験を受験し、合格することで、就労先を選べ、給与が上がり、外国人市民の生活レベルが向上できるように支援する。：2件
	文法、読解、または漢字の理解を軸として日本語能力試験など有形の実績を蓄積することを目的とする。
指導者の関わり ボランティア	日本人も外国人に伝わりやすいコミュニケーション方法を学ぶ。：3件
	「自分らしく人の役に立つ」がモットー。無理をしないでボランティアを続けることが重要。
	スタッフ一人一人が会の運営者となり、『外国人に日本語を教えたい』というボランティアスタッフには、教える場を提供する。

生活支援・居場所づくり	学習者の生活支援：9件
	日本で就職・就労するために必要な日本語を教える。：6件
	外国人の居場所づくり：5件
	生活情報の提供：2件
	外国人・日本人の居場所づくり：2件
	生活者としての外国人を意識しての教室なので、生活支援や相談にも応じる居場所としても大切にしている。
	中国帰国者とその関係者、ならびに日本語を母語とせず日本を生活の基盤とする方たちに対し、生活支援を通じ、多文化・多民族共生社会の実現。
	ウェルフェア リンギスティクス（社会の福利に資する言語・コミュニケーションに基づく言葉の支援）を理念とする学びのセーフティネットとしての教室であること。
	学習者とのコミュニケーションを豊かにして日本語教室内で日本文化紹介、国際交流協会のイベントに参加してもらい豊かな日本の生活を送ってもらう。
	活動を通じての人と人とのネットワークや居場所づくり
	外国人の生活・進路相談
	外国籍児童・生徒の就学支援など
	市内在住・在勤の外国のかたを対象に、市民との円滑なコミュニケーションを促進し、充実した日常生活を過ごしていただく。
	学校や職場その他において、日本人とスムーズにコミュニケーションが取れ、日本での生活をより安心して送っていただく事ができるよう在住外国人の日本語の語学力・会話能力を向上させる。
交流	地域の日本人と外国人との交流：4件
	交流の場、何でも話せる場所：3件
	学習者には対面とオンラインにて対応し、オンラインでは国内外問わず学習者たちの交流の場を提供し、いつでも日本語を使える環境を作っている。
	多文化共生をめざした交流活動
	同じ地域に住む仲間として、お互いが理解しあう交流の場を提供する。
	日本語学習を通じた異文化交流
	日本語教室ではなく、国際交流のグループ。参加者は「先生と学習者」ではなく「仲間」であり、「教える／教わる」ではなく「ともに学ぶ」対等な関係を目指している。テーマを決めて会話を楽しむ場としている。（教科書を使用した日本語指導やJLPT対策等は基本的に行っていない。）
	日本語に自信のない外国人がホッとできる場にしたいとの思いを込めて教室名を名付けており、基本的な日本語学習はもとより、日本人、外国人の区別なく、同じ市に住む者同士の仲間作りの場になることも願っている。
	学習だけではなく、文化交流や情報交換の場となるようなアットホームな教室とする。
	講義形式でなく、日常会話（おしゃべり）を通じて、気軽に日本語に触れてもらう機会とする。

多文化共生・異文化理解	外国人と日本人の相互理解：7件
	多文化共生社会の構築：3件
	日本で暮らす外国人が少しでも暮らしやすくなるためのお手伝い。その一つが日本語でのコミュニケーション。日本語学習だけでなく、相互理解を図るために外国・日本の文化を紹介し合う時間も設けている。
	中国帰国者とその関係者、ならびに日本語を母語とせず日本を生活の基盤とする方たちに対し、日常生活・社会生活における意思疎通・情報伝達の能力育成を目的とする日本語と文化習慣の指導を通じ、多文化・多人種共生社会の実現。
	外国人の方に熱意をもって日本語や日本の文化等を教えてくださる方に指導していただいている。
	日本滞在中、少しでも楽しく滞在できるように、日本の生活（日本人）を理解する。
	日本文化の紹介
	地域社会における共生の促進を図るために、日常生活に必要な日本語の学習を支援する。
	学習者との相互理解
	コミュニケーションを通して人間関係づくりを行うことで、多文化共生の拠点としての役割を担う。
	『教えることは学ぶこと』を実感し、学習者からの学びに感謝し、互いに学び合いながら成長し、異文化交流・心の交流を大切に考える。
多文化共生を軸に、ボランティア、学習者の居住地域を問わず、日本語学習活動に受け入れる。	
その他	主に乳幼児連れの外国人女性への日本語指導及び子どもの預かり
	学習者とボランティアの対等性を徹底
	外国にルーツを持つ子どもや家族が日本語人とともに平和な未来を描けるようになることを基本理念としている。子育て中のママ・パパが最低2つ以上の言語や文化に触れる子どもたちの言語習得やアイデンティティ形成の重要性を知ることも大切だと考えている。
	地域在住の外国人市民の方々が、地域に親しみ、安心して生活していけるように、日本語を通して生活を支援していくセンター的な役割を担う教室であることを、大事にしている。

(n=76)

問15. 【複数回答】

教室の学習内容・活動内容について教えてください。重視している順に5つ以内で選択

◆内容別+重視する順（回答教室数）

（内容の回答数を1番目に重視～5番目に重視の別に教室数で集計し、1番目に重視～5番目に重視の合計が最も多い内容順に上から並べている。1番目に重視～5番目に重視それぞれにおいて最も回答数が多かった内容について、その値を太字にしている。）

	合計	1番目に重視	2番目に重視	3番目に重視	4番目に重視	5番目に重視
日本語の日常会話中心	67	33	18	6	9	1
生活で必要となる日本語の習得	61	18	22	10	10	1
日本語の読み書き中心（文字、文章、作文）	45	5	10	17	6	7
日本語の文法中心	40	6	7	6	15	6
日本語能力試験対策	38	7	6	9	6	10
日本人と外国人の交流や多文化共生	31	3	5	12	5	6
外国人に対する生活面でのアドバイス・支援	26	1	0	5	7	13
日本の文化を教える	17	0	1	0	5	11
仕事に必要な日本語の習得	16	1	5	5	2	3
仕事探しに必要な日本語の習得	3	1	0	0	1	1
在留資格変更・更新のための日本語の習得	0	0	0	0	0	0
その他	5	4	0	0	1	0

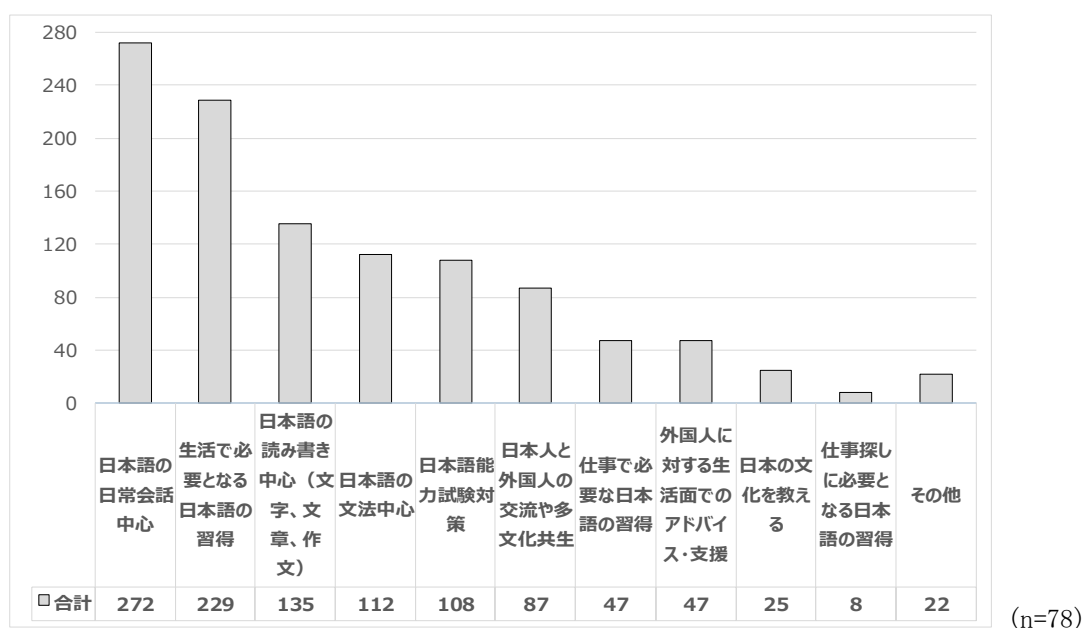
(n=78)

※無回答（3教室）・2番目に重視以降の一部無回答（18教室）

※nは最大の数（最小：n=60）

◆内容別+重視する順（合計値）

（各教室の回答について、1番目に重視する内容を「5点」、2番目に重視する内容を「4点」、3番目に重視する内容を「3点」、4番目に重視する内容を「2点」、5番目に重視を「1点」、そして1番目～5番目重視のどれにも該当しなかった内容を「0点」として点数化し、各内容別に集計した。）



※無回答（3教室）・2番目に重視以降の一部無回答（18教室）

※nは最大の数（最小：n=60）

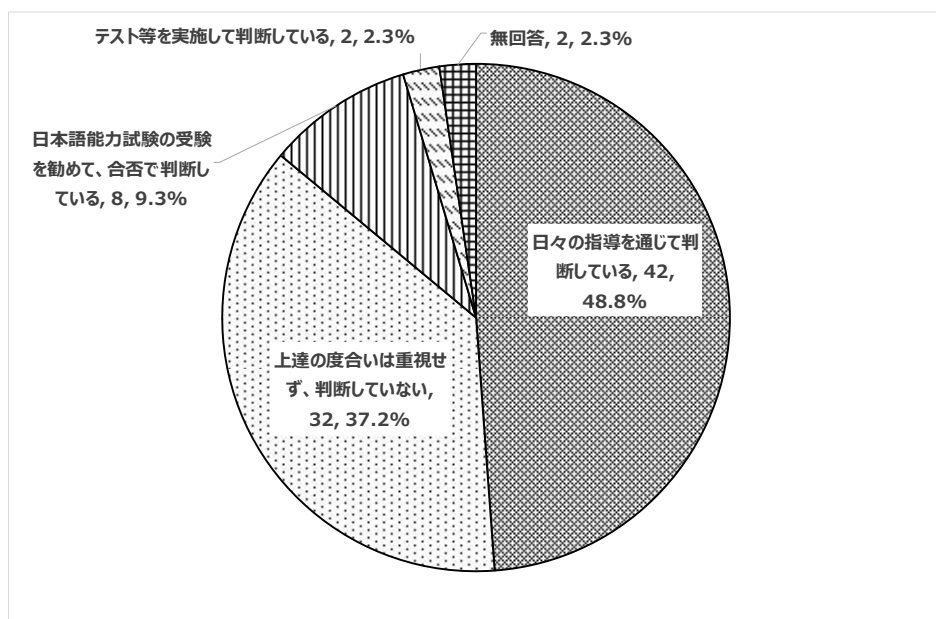
■その他

学校や保育園で使う日本語

日常会話、文法中心、日本語能力試験対策など、それぞれ学習者の希望に応じた学習内容で行っている。

問16.

日々の学習において、学習者の日本語の上達度合いをどのように判断していますか。



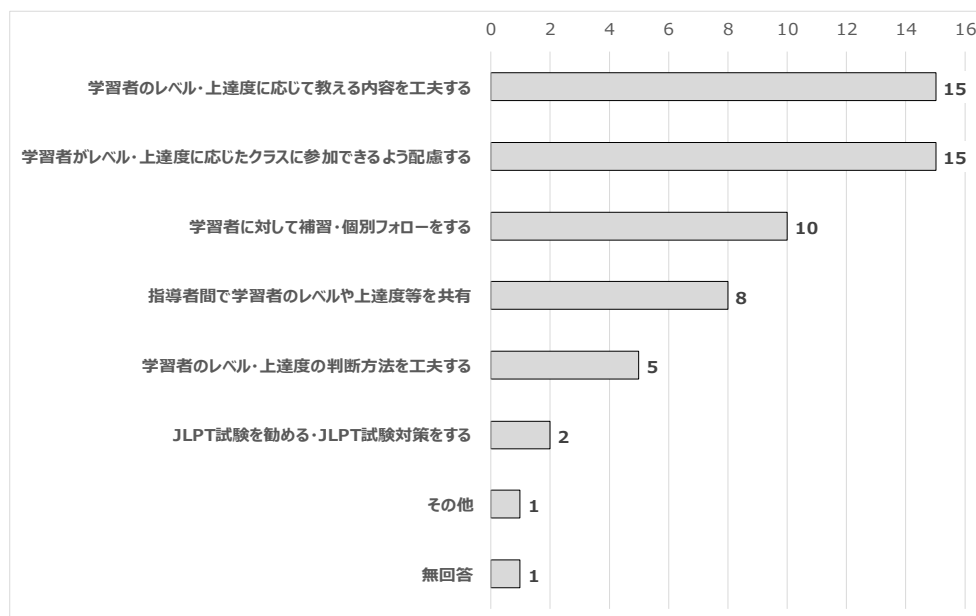
※%の母数は、複数回答のあった教室（5教室）分の回答数も含めている。

問16. で“判断している”と回答した教室

問17. 【自由記述】

上達の度合いを判断した後、どのような対応をしていますか。

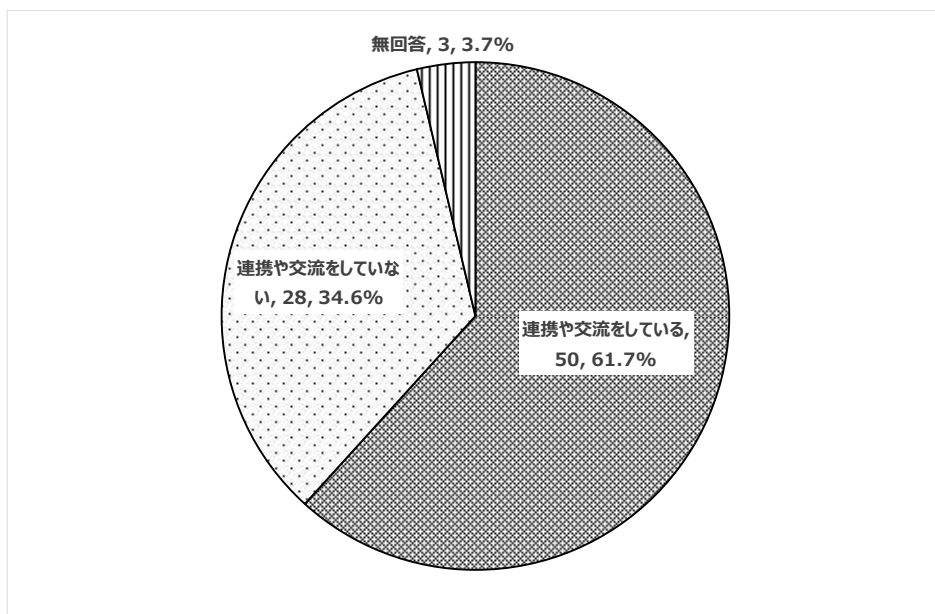
(自由回答の内容を分類し集計)



■その他：上達が見えた時、褒めて励まし、更なるステップにつながるよう激励する。

問18.

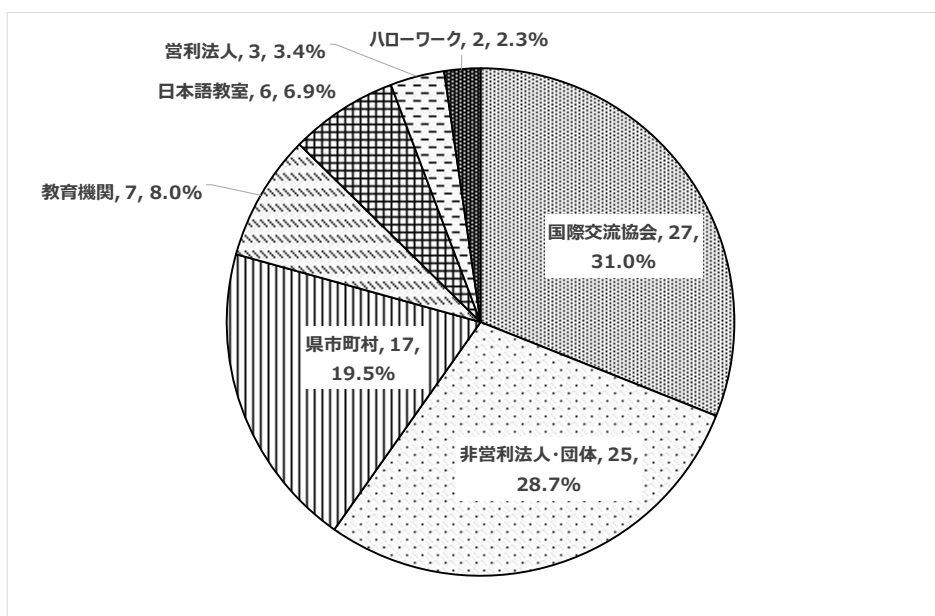
日本語教育・日本語学習支援に関して、他の団体（自治体・国際交流協会・企業・大学・NPO・日本語教室等）との連携や交流を行っていますか。



(n=81)

問18. で“連携や交流をしている”と回答した教室

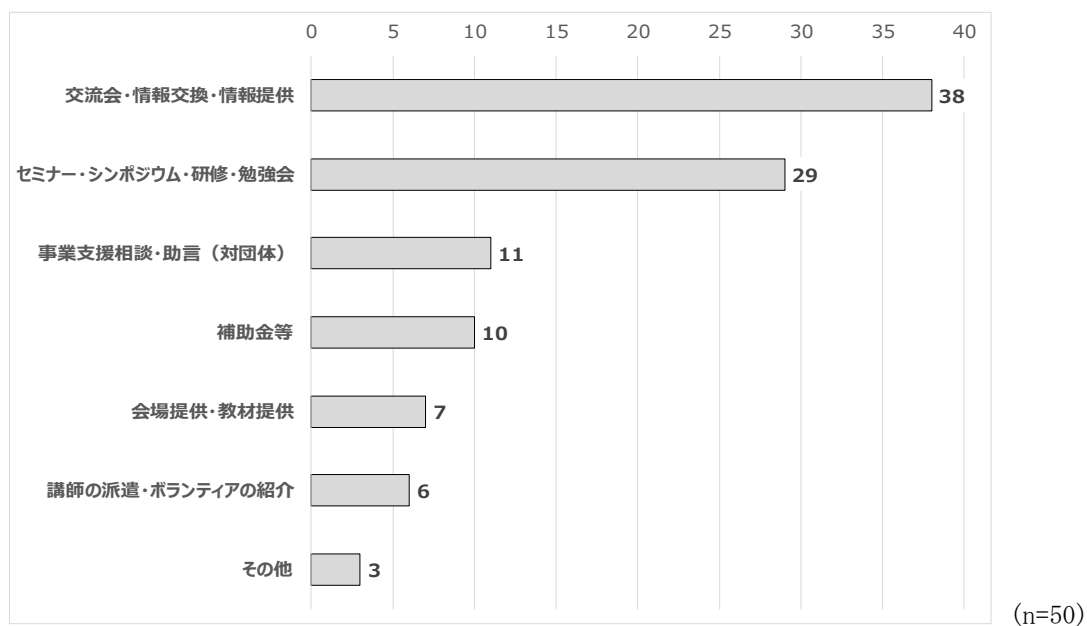
◆連携や交流をしている団体【複数回答】（自由回答内容を分類し、集計）



(n=50)

問18. で“連携や交流をしている”と回答した教室

◆連携や交流の内容【複数回答】（自由回答内容を分類し、集計）

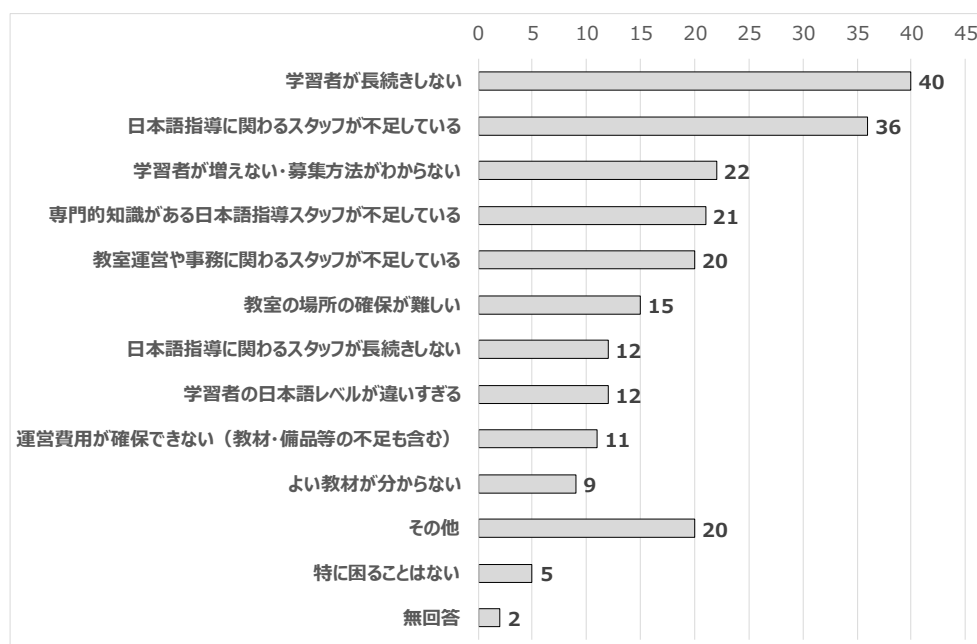


■その他

学生の課外活動
学生の受入れ
職場体験の実施

問19. 【複数回答】

日本語指導や教室の運営で困っていることはありますか。



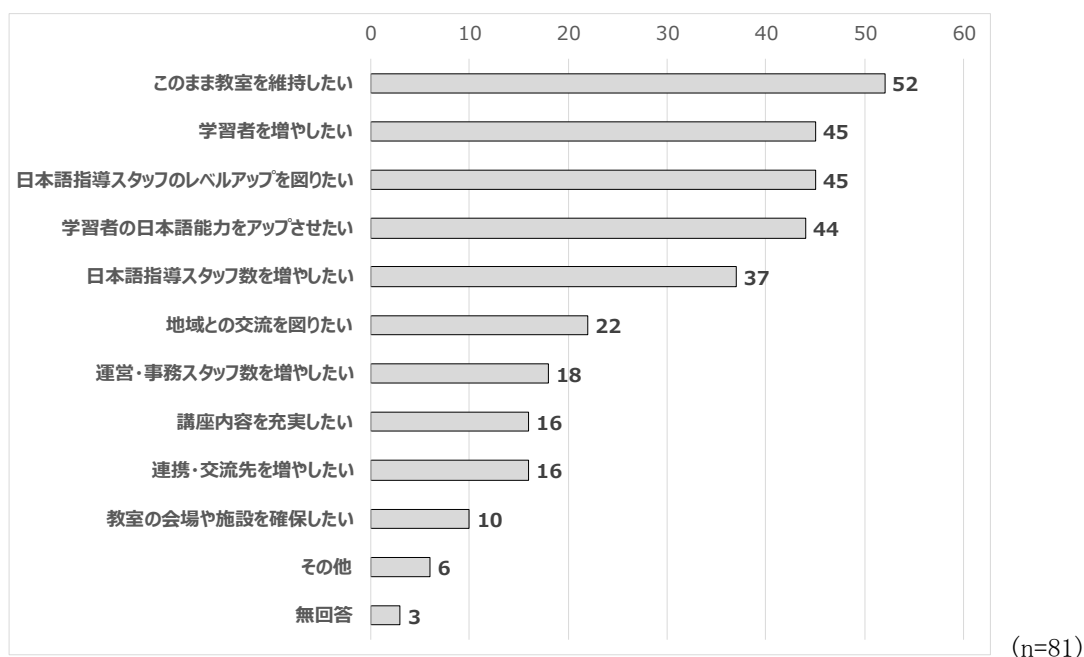
(n=81)

■ その他

ボランティアやスタッフの高齢化が進み若い人材が少ない：8件
コロナの影響で学習者が激減している。：2件
受講者への連絡の仕方（文書が届かない、内容が理解してもらえていないかわからない）
2020年、2021年においては学習者が集まらないし、対面クラスもできないので、特殊な状況下にあると考えている。
学習者の人数に比べ、ボランティアの人数が多い。
新型コロナの影響で、教室自体6月から開催できていない。
教材使用については著作権のとらえ方がどうなっているか難しい。
南米人を対象とした教材が非常に少ない。
オンライン授業の効果的な方法を教わりたい。
教材を生かしていない、教室での学習方法の改善がされていない。
指導方法の情報や指導書や教本の入手困難
『みんなの日本語』から新しい教材への変更をしたいこと。ボランティアの指導方法を懸念。
行政の理解不足

問20.【複数回答】

今後、教室をどのようにしていきたいとお考えでしょうか。



■その他

当市の今後の体制づくりと運営方針の中での位置付けを明確にしたい。

日本の中学を形式卒業して学び直しを希望する方々がいる。地域において日本語支援とともに、さまざまな生活相談や教育相談などの支援を行うことで、外国籍労働者の就労支援にもつなげていきたい。

コロナで減少した指導スタッフ、学習者を回復したい。

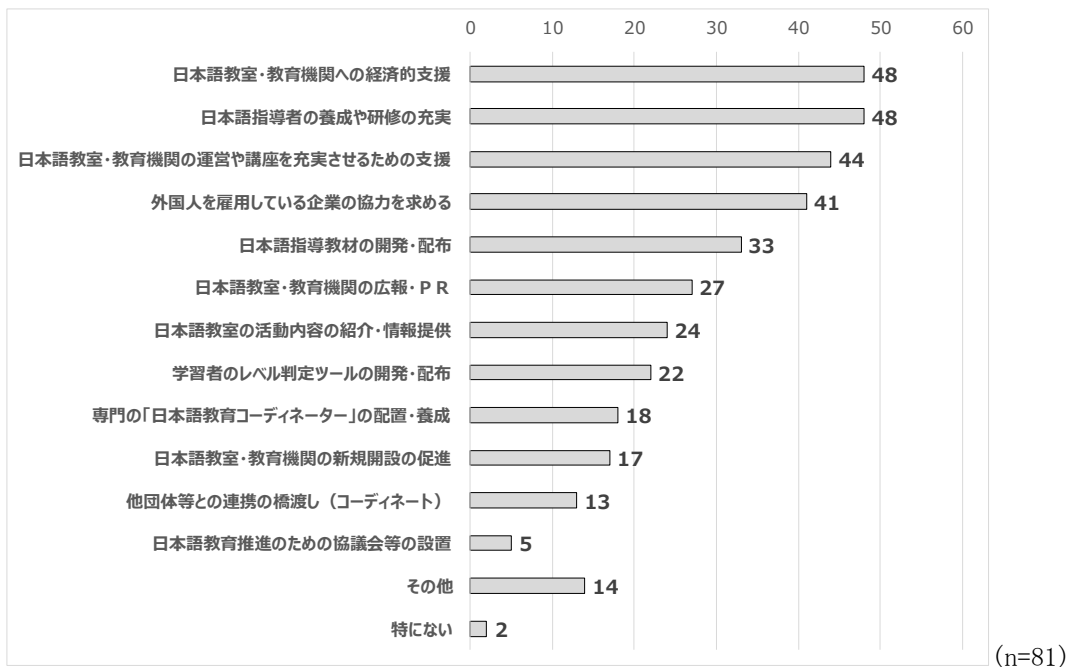
コロナ禍以前に開催していた、もう少し上級で、いつでもだれでも参加できる教室を再開したい。

地域の企業と交流し、情報交換を行いたい。

当市における当協会日本語教室の認知度と評価を高めていただきたい。

問 2 1. 【複数回答】

日本語学習を希望する外国人に対して、必要な日本語を学ぶ機会を提供するために、今後県はどのような支援を実施すればよいと思いますか。



■ その他

日本語を教えるボランティアの指導能力の向上の支援：6件（うち1件：オンラインでの日本語ボランティア養成講座）

新しい役割（日本語教育コーディネーター含め、何とかサポーターや多文化共生マネージャーなど）に必要性を感じない。特に語学習得に関しては、ボランティアで対応しきれないとは思えないので、本気で日本語習得と言うならば、英会話学校の様に民営化していくことや、プロの教師を増やしていくことに注力して欲しい。そしてそれを国に働きかけて欲しい。

日本語教師（有資格者）の賃金を上げれば、なり手が増え、確実に日本語教室の充実に繋がると思う。その働きかけをして欲しい。

とくに場所の確保に協力をしてもらいたい。

直轄日本語教育機関の開設、運営（支援ではなく）

公立の夜間中学の設立を強く要望している。日本語支援の問題は、言葉だけの問題ではない。義務教育の途中で来日する子どもたちが成長する中で、不登校を経験するなど外国人労働者の家族の問題が深刻化している。こうした不就学生徒や形式卒業した方々のためにも早く支援体制を整えてほしい。

ボランティア団体にも学校法人同様に教材使用が著作権フリーとなるよう働きかけてほしい。

文法を簡単に調べることができるホームページの開設（スペイン語・ポルトガル語話者を対象）

日系ブラジル人に関して言えば、体系的に文法を学んできたわけではなく生活の中で自然に習得してきたので、研修生と同じ日本語教室だとしていけず退室することが多いと聞く。しかしながら、字が読めるようになりたい、表現レベルではなく文法を教えてほしいという要望は高まっているので、定住外国人向けの日本語教室のカリキュラムの策定が求められていると思う。

民間が運営する日本語教室が増えてきたことを踏まえて、市町村や協会の役割を見直し、指導支援をいただきたい。

多文化共生推進事業における日本語教室運営事業の重要性の認識を高める啓発活動